

週足



長期概況

2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022/10/21高値151.94円を頂点とした調整局面は、FOMC12月会合において上げ幅を50bpへ縮小(6月～11月会合では4会合連続で.75%の利上げ)、12/20の日銀金融政策決定会合で、長期金利変動幅の上限を0.5%に拡大(従来は0.25%)が決定されたことなどを材料として、127.22円まで下落しました。2/3に発表された米1月雇用統計で市場予想を上回る好結果となったことを受け、米労働市場の堅調さが確認されたとともに、2/24(金)に発表された1月米個人消費支出(PCEデフレーター)も予想を上回る結果となったことで、3月と5月の会合でも利上げが続くとの思惑から、戻りを試す展開となっています。

【2023/3/13～3/17】

3月第3週のドル円は、133.73円から始まり、週末にかけて下げ幅を拡大し、約1か月ぶりの安値となる131.55円まで下落しました。前週末の米シリコンバレー銀行の破綻のニュースからリスク回避のドル売り円買いの流れが続く中、今週に入り、米グニチャー・バンクの事業停止、米ファースト・リパブリック銀行の株価が70%超暴落などのニュースが相次いだことや、米国だけでなく欧州においても、スイスの金融大手クレディ・スイスに経営危機観測が浮上するなど、金融不安は収まらず、131.55円まで急落する展開となりました。欧米金融システム不安から欧米ともに利上げ観測が急速に後退した見方が大半となり、22日開催のFOMCにおいて金利据え置きが想定されましたが、16日、ECBは政策金利0.5%引き上げを強行。これによってFOMCにおいても0.25%引き上げを予想する向きが多勢となり、下げ渋る展開となりました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは中心線が下向きとなっており、下落を示唆しています。
また、ボリンジャーバンドの幅がエクспанションを形成し始めており、下落トレンドの発生を示唆しています。
週足ボリンジャーバンドは、中心線が下向きで、下落を示唆しています。
月足ボリンジャーバンドは中心線が上向きですが、 -2σ が収斂しており、上昇に一服感がでています。

◆予想レンジ 129.74円～134.72円

注目レート		テクニカル
上値②	134.72	・2023/3/8高値137.90円から3/17安値131.55円の50.0%戻し(フィボナッチ:緑)
上値①	133.05	・2022/10/21高値151.94円から1/16安値127.22円の23.6%戻し(フィボナッチ:青)
下値①	130.22	・ボリンジャーバンド日足-3σ近辺
下値②	129.74	・1/16安値127.22円から3/8高値137.90円の76.4%押し近辺(フィボナッチ:青) ・2/14安値近辺

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。